

令和7年度 前年度の改善方策について実行した改善結果

温知学舎 世田谷区立上祖師谷中学校
校長 古川 恵樹

1 学習指導（授業）について

生徒による学校評価アンケートにおいて、「先生は、課題について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中でとっている」令和6年度94%→令和7年度96%、「授業では、考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある」令和6年度96%→令和7年度96%という肯定的な評価の結果となった。このことを受け、生徒たちは、引き続き今の学習スタイルで授業を行うことを肯定的に捉えていると考える。

一方保護者の肯定的評価はそれぞれ66%→69%、74%→80%となり改善の視点に対し、一定の評価をいただけたと考える。

この結果を受け、次年度は、今年度行った授業力向上への取組を引き続き行うとともに、さらに生徒たちの授業等の振り返り等を分析し、課題を抽出していく。

また、引き続き温知学舎として継続的に行っている授業研究や校内における授業力向上プロジェクトのさらなる充実を図るとともに、主体的、対話的で深い学びの授業展開を必要とする学習内容では、着実にその授業展開が行えるよう、さらに個々の教員の授業力向上を目指す。また保護者には、授業の状況が「分からない」という回答の割合がまだまだ高い状況が続いているため、令和8年度の引き続き、振替休業日を取った土曜日授業において、6時間授業（給食有）を設定し、保護者の来校が授業を御覧いただける教育課程の編成を目指す。さらに校外学習等の発表会等を土曜授業日に積極的に設定していく。

また上記に加え、インクルーシブ教育の推進をさらに図り、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりをさらに多く構築し、分かりやすい授業を追及していく。

2 生活指導について

生徒による学校評価アンケートにおいて、「私は、学校での過ごし方やルールについて考えて行動している」について、令和6年度93%→令和7年度92%という変化の肯定的な評価となった。

その他の項目の評価を見ても、昨年度と大きく変わる評価はなく、大部分の生徒は規範意識をもつとともに、教職員の生徒指導について、理解し、行動できていると考える。

一方保護者の肯定的評価が令和6年度70%→令和7年度75%という変化の肯定的な評価となった。「分からない」との回答が約15%、否定的評価が約10%という結果は昨年度と大きな変化はないため、引き続き保護者の方には、保護者会、三者面談等において、本校の生徒指導の方針や学校の様子等の情報発信を丁寧に行っていく必要であると考えます。

次年度以降も「なぜその行動等がいけないのか」「なぜこのルールがあるのか」等、生徒が教職員の一つ一つの指導に対し、その意義等、指導された内容を生徒自身がしっかり理解し、自己の行動等を改善していけるよう、生活指導部を中心に組織的に行っていく。また保護者には、保護者会、学校ホームページ等を活用することにより、積極的に情報発信していくとともに、セーフティ教室等を周知し、参加等を求め、御家庭と共に生徒指導を行っていただけるよう努めていく。

また、「ルールメイキング」等、生徒会役員中心に、校則等を生徒自身に考えさせる機会を設定できるよう、努めていく。

さらに特別に配慮を要する生徒については、引き続き、校内委員会による情報共有及び、スクールカウンセラー、学校包括支援員、生活サポーター、学生ボランティア、関係諸機関等との連携を通じて、きめ細かく丁寧な指導を継続していく。

3 学校行事について

生徒、保護者の学校評価アンケートにおいて「学校行事は楽しい」「学校行事は、子どもにとって楽しい」は、それぞれ94%、91%の肯定的評価であった。また、本校の二大行事ある体育祭、音楽祭に関

しては保護者の方からの肯定的な御意見を数多くいただいている。その他にも宿泊行事、校外学習等、様々な学校行事があるが、どの行事においても学級等において、一人一人が様々な役割等を考え行動する等の取り組みにより、生徒たちは達成感、充実感を得ていたと考える。また、リーダーの育成も、学校行事を通して育まれていると感じている。今後も創意工夫を凝らした企画・運営を図り、生徒の学び意欲や達成感の向上を図っていく。

4 進路指導（キャリア・未来デザイン教育）について

学校評価アンケートにおいて「学校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している」について、生徒は令和6年度81%→令和7年度83%という肯定的評価であった。また、保護者の評価は令和6年度58%→令和7年度65%という肯定的評価であった。他の項目についても、全体的にキャリア教育について保護者の肯定的な評価は上昇傾向であった。

この結果から、今年度特に力を入れた「キャリア・パスポート」の活用が一定の効果が表れたと考える、しかし、キャリア教育は世田谷区の教育目標である「幸せな未来をデザインし、創造するせたがやの教育」の根幹をなすものであり、教科等を学習する意義につながるものであり、まだまだ取組を充実させていかなければならないと考える。引き続き来年度も三者面談等の中で、「キャリア・パスポート」を軸として、自己の学校での学習、生活等の振り返りを学校、御家庭、生徒自身の三者で行い、一人一人の「幸せな未来をデザイン」できる資質・能力を高めさせていく、

なお、「キャリア・パスポート」の作成することが重点とならないよう、各行事等、学級の係活動、学校全体の委員会活動、ボランティア、平和学習等において、その取組における一人一人の役割等、その一つ一つについて、教員が「ねらい」を明確に示すとともに、生徒が取組を通し、成長した点をフィードバックできるよう取り組んでいく。そして、改めて次年度も「キャリア・パスポート」の活用の工夫等に努めていく。

また、進路の中の進学等に関する情報等は、生徒一人一人が『自分らしい生き方』を実現するための上級学校等の情報であり、それは全員違い、個々の生徒に必要なことを、学校が安易に判断し、選んで伝えることができないことは昨年度お知らせした。この点についての情報発信は、やはり非常に難しい。しかし今後、すべての生徒及び保護者に関係する（個々に関する情報以外）進路の中の進学等に関する情報等をできる限り提供するとともに、生徒、保護者がその情報を得る手段等をできるだけ多く「すぐーる」等を活用し、学校より発信することに努めていく。

5 部活動について

学校評価アンケートにおいて「部活動は楽しい」は生徒の評価では令和6年度82%→令和7年度81%、保護者の評価では令和6年度73%→令和7年度79%という肯定的評価であった。部活動は、自主的な参加であり、全員の生徒が行っているものではないが、活動している生徒は、勝敗や技能の向上だけではなく、人間関係の構築、自己有用感の向上等が図られていると考える。異年齢の生徒が同じ目的に活動していく上で、様々な課題等が出てくる場面もあるが、それを解決していくことでさらなる成長が得られていると考えていることに変わりはない。来年度は、練習や試合等の活動の様子を学校ホームページにアップする等することで情報発信の回数を増やし、生徒たちの頑張りを広く周知することに努めていく。

なお、全ての部活動に専門性がある教員を配置することは困難であるとともに、大変残念ではあるが、異動等により、やむを得ない状況により活動の継続ができなくなったり、指導内容等が変更を余儀なくされたりすることは今年度も課題として残っている。土曜日、日曜日の活動についても同様であり、生徒と教職員の健康面を考え、活動方法等を検討していく。

6 学校運営について

学校評価アンケートにおいて「学校生活は、楽しい」「本校の学校生活は、子どもにとって楽しい」については生徒、保護者それぞれ令和6年度90%→令和7年度90%、令和6年度80%→令和7年度83%という肯定的評価であった。その他の項目も、大きな変容はなく、引き続き次年度も、授業の質の向上を図るとともに、体験学習、行事等を充実させていく。

また、「本校は、保護者に指導の重点を伝えている」は令和6年度62%→令和7年度76%という肯定的評価であった。このことより学校ホームページや、すぐーる、ロイロノート等を活用することによって教育活動を広く知ってもらうことができたと考える。それでもまだ低い割合のため、今後も継続して日頃の学校運営のあらゆる場面で指導の重点等を分かりやすく伝えていくことに努めていく。

7 教職員（先生）について

学校評価アンケートにおいて「先生たちは、生徒に分かりやすく指導している」の評価（生徒）では令和6年度92%→令和7年度93という肯定的評価であった。また「本校は、丁寧に指導している」の評価（保護者）では令和6年度73%→令和7年度78%という肯定的評価であった。また、その項目の保護者の回答では「分からない」が令和6年度13%→令和7年度は9%という評価であった。

この項目において「分からない」の割合の減少分が肯定的な回答の増加分とほぼ同じであった。一概には言えないが、学校公開等において、生徒の発表等を行う等、授業等を見ていただく機会をさらに増やせたことが「分からない」を減少させるとともに、肯定的な回答の増加につながったと考える。そのため、来年度は、さらに意図的・計画的に土曜授業日に生徒の発表等を行う機会を増加させ、教員の指導等の成果を直接見ていただきたいと考え、来年度の教育課程の編成を工夫していく。

また、「先生たちは、生徒が相談しやすい」「本校は、子どもや保護者が相談しやすい」という項目について肯定的評価が生徒、保護者とも令和6年度は約70%であった。令和7年度はそれぞれ72%、73%と微増しているが、根本的な改善にはいたらなかったと考える。教員の様々な職務の増加により、多忙化となり、教員が生徒と相談できる放課後の時間等の確保が難しい状況を今年度も変えられなかったところが大きいと考える。

来年度は、今年度実施できなかった、今まで行ってきた学校生活アンケートに加え、昼休み等を活用した二者面談、ICT機器を活用した相談体制（教員が単独で行わない等を留意する）、スクールカウンセラーと連携した相談体制の工夫等の構築にチャレンジしたいと考える。

さらに、学生ボランティアの採用を積極的に行うとともに、特別支援コーディネーターを中心にインクルーシブ教育支援員、特別支援教室専門員等の多くのスタッフで、組織的に相談体制の充実に努めていく。

8 広報活動・情報提供について

学校評価アンケートにおいて「学校だよりなどで保護者に情報を提供している」については、令和6年度令和7年度共に85%の肯定的評価であった。なお、学校公開、保護者会等において、生徒の様子が分かる問項目については保護者からの肯定的な評価は高い結果であった。今年度は学校公開、保護者会を含め、ホームページやすぐーるの活用により、丁寧な広報活動ができたと考える。また、ホームページの更新回数、更新方法等に工夫改善したことが結果につながっていると考える。しかし、まだまだ御多用の保護者が多く、公開授業などで生徒の様子を見ることができないため、日々の授業等の学校の様子を知りたいという要望の声は大きい。今後も積極的に学校ホームページ等を活用し、情報公開に努め、学校の教育活動を広く地域社会に発信していく。

9 地域との連携について

9月に行われる地域連携を深める取組の「避難所運営訓練」は、町会代表者の方々と共に1年生全員が上祖師谷まちづくりセンター職員の説明を受け、実践活動を行った。「上祖師谷中学校ボランティアピブス」を着用し、生徒ボランティア活動は小学校の運動会ボランティアと、あいさつ運動のみの活動となったが、活動の「見える化」を図った。学校運営委員会の内容についても、学校ホームページや運営委員会だよりを通じて活動の様子を伝えている。

なお今年度、上記の「避難所運営訓練」はその継続的な取組等が評価され、世田谷区教育委員会より「キャリアアワード2025」において表彰を受けた。今後も生徒たちが地域の一員としての責任感を育成するとともに、地域の一員としての役割を果たせるように努めていきたいと考える。

10 学校の安全性について

保護者からは「本校は、子供にとって安全である」について75%の肯定的な評価、「本校は、避難訓練やセーフティ教室等で、子供に安全に関する指導をしている」について86%の肯定的な評価であった。

令和7年度をもって大規模な校舎、校庭等の改修工事が終了したが、施設面等において経年劣化により修繕等が必要な箇所がまだまだあるため、引き続き世田谷区教育委員会等と連携し、生徒たちが安全に学習できる環境を整備していく。

また、組織的に校舎内外の危険な箇所等の安全点検を行い、学校の安全性を高めていく。

なお、学校周辺の道路拡張工事等は引き続き行われていたり、登下校中の甲州街道等及び踏切周辺での安全面での課題を地域等から指摘されたりする状況にあるため、生徒たちへの安全指導等について、保護者、地域等の御支援、御協力等をいただきながら、粘り強く指導していきたいと考える

11 保護者・生徒自身のことについて

学校評価アンケートにおいて、生徒の「学校生活は楽しい」については、肯定的な評価が令和6年度、令和7年度共に90%であった。このことから生徒の学校全般における評価は良いと考える。また、保護者についても「学校からの連絡文書はよく見ている」について、令和6年度86%、令和7年度84%という肯定的な評価を受け、「すぐーる」、「学校ホームページ」等により、学校からの情報の発信をしっかりと確認していただけている状況が鑑みられている。

しかしながら、保護者のアンケートの回答において「分からない」という回答が、今年度も各所にまだまだ見られている。また、学校評価アンケートの回収率も、保護者40%、地域の66%のため、回収率の向上も課題であると考え。これからも保護者、地域と共に「共育（教育）」をしていくことを推し進めていくためにも、引き続き本校の教育活動を多くの方に知っていただく機会を多く設定することにより、本校を知っていただくことに努め、保護者、地域の方の御理解、御支援及び御協力を得ていかなければならないと考える。来年度も保護者・地域からの信頼を得られるよう、本校の学校教育を進めていく。